



真生会富山病院

地域連携だより

創刊号

2012年8月発行

〒939-0243

富山県射水市下若 89-10

TEL 0766-52-2156

FAX 0766-52-2197

<http://www.shinsekai.jp/>



院長挨拶



院長 駒井理

65歳以上の方が総人口に占める割合が21%を超えると「超高齢社会」と言われ、日本は平成19年（2007年）に、すでにその「超高齢社会」に突入しています。平成37年（2025年）には総人口の28.7%（3.5人に1人）が、65歳以上になると言われます。また、認知症高齢者数は平成14年現在で約150万人、2025年には約320万人になると推計されています。そのような社会情勢にともない、当然ながら入院して治療を受ける必要のある人が増えると思います。当院でも特に体の弱い老人で、医療的な関わりが長期に必要な方が自宅に戻れず、病院のベッドが不足することが課題となっています。患者さんとしては、な

るべく市内の病院で治療を受けたいと希望されるでしょうし、当院としても1次ないし1.5次の医療を担う病院という自覚のもとに、地元の患者さんはなるべく受け入れたいと考えています。しかし、99床という病床数の制限から受け入れ困難な場合が少なくありません。人口1000人当たりの一般病床数から見ても、射水市31床、高岡市101床、砺波市93床、氷見市78床という状況で、射水市は近隣の市と比べて病床数が少ないため、市内での受け入れには限界があります。病床数を減らすのが国の方針のようですが、実現するかどうかという疑問はあります。いずれにしても限られた病床数の中で患者さんの健康を守るには、これからも様々な連携・協力をお願いすることが大切と思っています。

症例検討会

真生会富山病院の病診連携の会は、開業医の先生より紹介いただいた症例の中から毎回数例を選び、診断治療とその疾患に関係するミニレクチャーを行っています。専門的な内容に偏りがちですが、あくまで「明日の診療に役に立つ」日常の臨床に即した内容を心がけております。どうぞ、お気軽にお越しく下さい。

～平成 24 年 4 月 20 日の内容～

症例 1：90 才女性 原発性マクログロブリン血症（高橋医院）

症例 2：68 才女性 上行結腸憩室出血（富川クリニック）

症例 3：82 才女性 関節リウマチ（渋谷クリニック）

ミニレクチャー：「当院における末梢血管に対するカテーテル治療」内科 堀田孝裕 医師

（症例 1）90 才女性

首頸部リンパ節腫大で発症し原発性マクログロブリン血症と診断された症例です。頸部リンパ節腫大の評価・治療方針は以下のとおりです。

<p style="text-align: center;">リンパ節の腫大</p> <p>1、どのような部位か 2、いつからか 3、痛みはあるか 4、固さはどうか</p>	<p style="text-align: center;">3、痛みはあるか</p> <p><input type="radio"/>あるー炎症性（まれに腫瘍性） <input type="radio"/>ないー腫瘍性、慢性炎症</p>
<p style="text-align: center;">1、どのような部位か</p> <p><input type="radio"/>临床上は 90% は頸部 炎症性 90% 以上、リンパ腫 1%、転移 1% （左鎖骨上窩）以下 <input type="radio"/>腋窩部は、多くは腫瘍性 <input type="radio"/>そけい部は炎症性、腫瘍性両方ある。</p>	<p style="text-align: center;">4、固さはどうか</p> <p><input type="radio"/>硬いー炎症性（痛い）、腫瘍性（痛くない） <input type="radio"/>やや硬い弾力性ありーリンパ腫、その他の慢性炎症など</p>
<p style="text-align: center;">2、いつからか</p> <p><input type="radio"/>1 週間から 2 週間かー炎症性（急性リンパ節炎〔化膿性、結核性〕、腫瘍性） <input type="radio"/>6 ヶ月以上前かー腫瘍性でも indolent タイプ、もしくは慢性炎症（サルコイドーシス、Castleman 病など）</p>	<p style="text-align: center;">頸部リンパ節腫脹の治療方針</p> <p><input type="radio"/>有痛性であれば、血液検査、胸部 Xp を施行して、2 週間経過観察。 <input type="radio"/>1 cm 以下、無痛性でも同じく検査の後、2 週間経過観察。 <input type="radio"/>1 cm 以上、無痛性で、2 週間以上変わらなければ、全身精査をして、リンパ節生検を考慮する。</p>

内科部長 刀塚俊起

医療安全委員会の活動

医療安全委員会 委員長 古谷正晴

当院ではインシデントレポートを電子化し、関係職員に迅速に配信、共有しています。提出されたレポートを毎週の医療安全カンファレンスで検討し、重要インシデントは月例の医療安全委員会で再度検討しています。

インシデントの背後要因の分析や対策の立案には、河野龍太郎自治医科大学教授の開発した「ImSAFER」(アイエムセイファー)を使用しています。昨年度は、各部署での医療安全活動の推進、医療安全教育の徹底、患者誤認防止システムの実行に力を入れてきました。平成24年度の医療安全委員会の活動方針は以下の通りです。

☆ 科学的視点に基づいたヒューマンエラー防止対策の立案と実行

1. 医療安全のためのコミュニケーションスキルを身につける
2. 手順の周知徹底と訓練の実施
3. 救命救急訓練の実施

ヒューマンエラーを減少させるため、3つのワーキンググループに分かれて活動を推進していきたいと思っております。



中央検査科の紹介

スタッフは臨床検査技師12名、事務員1名の計13名です。

本館検査室と南館検査室の2箇所の検査室があり、患者さんには受診科に近い検査室で検査を受けていただいております。生化学検査、血液検査、輸血は本館検査室で行い、採血、一般検査、生理検査は両方の検査室で行っています。生理検査の内容は、超音波検査、心電図検査、呼吸機能検査、脳波、神経伝導検査などです。

超音波検査は心臓、腹部、頸動脈、甲状腺、下肢動静脈の検査を、午前3台、午後は

2台で対応しています。個々にレベルアップするためスタッフ全員が超音波検査士の資格取得を目指しています。現在の有資格者は、腹部領域6名、心臓領域4名です。

これからも患者さんの立場に立って考え、検査を受ける時の不安を少しでも和らげることができるよう心がけていきたいと思っております。



地域医療部の紹介

地域医療部 部長 豊田茂郎

真生会富山病院では、患者さんが安心して療養生活を送れるよう地域連携に力を入れています。平成18年に地域医療部を設置し、医師、看護師、ソーシャルワーカーを配置しました。

地域医療部には、地域医療連携室と医療福祉相談室があります。地域医療連携室では、病診連携・病病連携を行い、当院の紹介・逆紹介患者さんのデータ集計をしています。

医療福祉相談室では、退院調整や、経済的・心理的・社会的問題解決のために福祉制度活用の援助を行っています。紹介患者さんの受け入れをコーディネートし、在宅医や訪問看護、介護保険サービスの調整を、地域のケアマネジャーや行政機関とともにしています。

当院通院中の患者さんの情報の問い合わせ、外来受診・転院などのご相談がありましたら、地域医療部までご連絡下さい。

【連絡先】 地域医療部

直通電話 0766-52-1556

F A X 0766-52-2368

<時間> 月～金 9:00-17:00、土 8:30-12:30



地域医療連携室、医療福祉相談室は管理棟の1階です。